

## 令和4年度 第8回美里地域会議 第二部 会議録

日 時：令和4年11月13日（日曜日）午後0時55分から午後2時まで

場 所：美里交流館 多目的ホール

出席者：〈地域会議委員〉青木 徹、岡田 宏之、岡本 渉、笠松 保希、小林 忠雄、  
代田 正晴、千葉 善郎、豊田 博久、中島 康隆、  
成田 恵美子、細川 章一、松村 洋、望月 英光、  
山田 正見、山本 由和  
(欠) 鷺見 等  
〈自治区長〉越本 政雄、長坂 敏、大坪 道助、水野 吉朗、  
曾我 昌司、池田 泰輔、野尻 拓貴、柿島 喜重、  
成田 健二、丸石 敏憲、船津 博、米田 久己  
〈自主防災会長〉重吉 孝、前川 武彦、田中 竜二、岩佐 伸雄  
〈消防団分団長〉鷹見 英志  
〈美里交流館〉鈴木館長  
〈高橋支所〉早川支所長、出口副支所長、塚田担当長、川瀬主査

### 〈内容〉

#### 1 美里地域会議 会長あいさつ

#### 2 美里地区区長会 会長あいさつ

#### 3 豊田市消防団 第二方面隊第3分団 分団長あいさつ

#### 4 美里地区の防災に関する意見交換会

美里地区の防災に関して「住民の防災自助力を高めるために必要なこと」をテーマに、6グループに分かれて意見交換を行った。意見交換後、グループの代表者がそれぞれのグループで出した意見を発表した。

##### 【グループ1】野見小学校区（御立自治区、野見自治区）

- ・自助力を高める話をしていると、公助・共助の話になってくる。
- ・各家庭においてどのくらい備蓄できているのか、自治区として把握できていない。交流館祭や防災出前講座で実施したアンケートでは、備蓄している人の割合が高いが、体感的にはそれほど備蓄できていないと思う。
- ・太平洋側は、支援物資が届くのに時間がかかると聞いたことがあり、食料や水の備蓄は3日分ではなく、7日以上必要である。簡単に支援物資が自分たちの手元に届くわけではないという危機感を、地域住民にもってもらうための啓発が必要。
- ・どういったものを、何のために備蓄したらよいかという知識を収集する機会が必要である。
- ・通電火災への備えとして、消火器が必要。消火器のあっせんがあると良い。
- ・防災万年カレンダーは、ぶら下げて使用した方が良い。めくりやすい、飾りやすい工夫があると良かった。

### 【グループ2】野見小学校区（神池自治区、県営神池自治区、野見山自治区）

- ・安否確認用タオルの認知度は高いが、防災万年カレンダーは、知らない人や忘れてしまった人も多い。自治区で行う防災訓練でアピールした方がよい。
- ・防災万年カレンダーを当初は使用していたが、めくるのが面倒になって、現在は使用していない人がいる。大きな紙で壁に貼れるようにしたらどうか。
- ・防災万年カレンダーを机に置いて使用すると、倒れたり、紛失したりする。めくりにくいですが、壁に掛けて使用した方が、紛失しにくくなる。
- ・グループ内の全員が、3日分以上の食料の備蓄をしているが、火がないと食べられないものがある。ガスや電気が使用できなくても食べられるものが備蓄してあるか、備蓄品の見直しが必要。
- ・実際に災害にあった人の話では、食料よりも水の確保で苦労したそうなので、水を備蓄しておくことが重要である。
- ・神池自治区では、備蓄は個人で行うものとし、自治区としては備蓄しないと決めている。

### 【グループ3】広川台小学校区（広川町自治区、美里四区自治区）

- ・防災万年カレンダーの内容は、自助力を高める内容になっており、全住民に活用してもらいたい。
- ・自治区ごとに実施している防災出前講座にて地域会議が実施したアンケートによると、防災万年カレンダーを知っている人は5割で、使用している人は1～2割しかいない。
- ・防災万年カレンダーを現時点で所有しているかどうか、自治区で把握できていない。
- ・今後、多くの人に防災万年カレンダーを利用してもらうために、所有状況の調査と、利用のお願いを自治区を通して行っていきたい。所有状況の調査は、年2回程度、アンケートを各世帯に配付することで実施する。アンケートを組長が回収して所有状況を把握し、持っていない世帯についてはフォローが必要。
- ・環境美化など区民が集まる行事や自治区回覧で、定期的に、防災万年カレンダーの使い方を案内したり、利用をお願いしたりする。命令形ではなく、お願いをすることが重要。

### 【グループ4】広川台小学校区（美里一区自治区、美里二区自治区、森自治区）

- ・飲料水は、2リットルのペットボトルで水を用意している人もいれば、20リットルのタンクで用意している人もいる。災害時のトイレ等に使用するため、雨水を貯水している人もいる。
- ・カップ麺を用意していても、カセットコンロの準備ができていないことがある。
- ・火を使用しなくても食べられる缶詰等の備蓄が必要。
- ・非常用持ち出し袋の中に、乾電池式のモバイルバッテリーを入れておくと良い。
- ・自家用車には、必ず半分以上ガソリンが入っている状態にしておく。
- ・簡易トイレを配布している自治区もあるので、参考にしたい。
- ・避難生活時に火を確保する方法が、カセットコンロ以外思い浮かばない。他に良い対策をしているところがあれば、教えてほしい。

### 【グループ5】東山小学校区（第2宝来自治区、美里三区自治区）

- ・美里地区は、山崩れや川の氾濫による被害が少ないと想定されている。それが住民の安心感につながり、防災対策への意識が低い傾向がある。
- ・安否確認タオルを使用した防災訓練は、毎年やった方が良い。転入者にも配布できるようにする。市は、継続的にフォローした方が良い。
- ・水と携帯トイレの備蓄は必須。携帯トイレについては、市の予算を確保して、3つくらい配布できないか。防災の日に、食料や水の備蓄状況に関するアンケートを実施し、その参加賞として携帯トイレを配布できると良い。

### 【グループ6】東山小学校区（東山町自治区、第1宝来自治区）

- ・防災万年カレンダーを毎日見ることは、実際には難しい。
- ・防災万年カレンダーの中で、特に大切な項目について、自治区のイベントの際に防災クイズとして出題し、正解者に賞品を提供したり、自治区イベントに防災万年カレンダーを持参した人に景品を提供したりして広めていく。
- ・停電を想定して、備えておくことが重要。ソーラー式のランプ、ろうそく、LED等を自治区で購入して、どれを備えるのが一番良いのか、今年度検討する予定。
- ・水の備蓄を自治区で行っているが、集会所や防災倉庫内の保管だと、通常よりも保管状況が悪くなり、賞味期限よりも短い期間しか使用できないこともあるため、水については自治区で備蓄すべきか再考する必要がある。個人で備蓄できるのが一番良い。
- ・非常用のトイレについては、個人で備蓄している人は少ないし、実際に使ってみると、結構手間がかかる。自治区で備蓄し、練習の機会を設けた方がよい。
- ・隣近所と、井戸端会議の中で関係を作っていく。
- ・市の防災対策課が作成している「防災虎の巻」は、非常に良い内容が掲載されている。是非皆さんも読んで、確認してほしい。